



OPRTプレスリリース

平成25年7月22日

中西部太平洋メバチ資源回復へ —OPRTが要望—

OPRT・責任あるまぐろ漁業推進機構は、7月19日、グレン・ハリー中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)事務局長に、メバチ資源の回復を図るよう要請する書簡(要旨別添)を送付した。

この書簡は、OPRTが、6月27日、各国会員の参加を求めて、東京で会員会合を開催し、過剰漁獲が問題となっているメバチ資源の問題について協議、その結果を取りまとめ、グレン・ハリー事務局長に送付したものの。

(会合に参加した会員：日本、台湾、韓国、インドネシア、フィリッピン、中国、セイシェル、バヌアツ)

「マグロ資源回復のための5ヵ年計画を策定するために、WCPFC作業部会が、8月27日から30日まで、東京で開催の予定となっており、本年12月のWCPFC年次会合において最終化されることとなっているが、この計画にOPRT会員の要望が反映されることを強く望む」と長嶋大四郎専務は述べた。

OPRT各国会員も、各自、自国政府にこの書簡に基づき、要望することとしている。

(問合せ先)

責任あるまぐろ漁業推進機構

事務局長：田端 事業部長：人見

TEL：03-3568-6388

FAX：03-3568-6389

Eメール：hitomi@opr.or.jp

(WCPFC事務局長へのOPRT書簡要旨)

WCPFCは、中西部太平洋マグロ資源管理5ヵ年計画を本年の年次会合で確定することとしているが、OPRTは、公正で実効性のある計画が策定されることにより、衰退しつつあるまぐろ資源の回復が図られるのを願っている。

さる6月27日、OPRTは東京で各国会員に参集を求め中西部太平洋のメバチ資源を焦点に意見交換をしました。問題に関する会員の共通の認識は、以下のとおりであり、これが、この5ヵ年計画に反映されることを希望する。

1. メバチ資源の現在の深刻な状況は、WCPFCの管理の失敗を示すものである。WCPFCは実効性のある5ヵ年計画を策定し実行することにより、事態を改善しWCPFC域内の全まぐろ漁業が崩壊する結果を回避すること。
2. 域内の過剰漁獲能力問題を解決するための具体策が実施されない限り、メバチ資源の回復は図れない。
3. 大型まき網漁船の隻数の制限措置を導入すべきである。かかる制限がなければ、隻数の増加に歯止めはかからない。また、外資導入をはかる発展途上島嶼国のまきあみ漁船の増加は止まらない。
4. 最近の小型はえ縄漁業の漁獲能力の増加も新たな問題である。従来から、大型はえ縄漁船の漁獲能力管理に努力が集中されていたが、小型はえ縄漁船の漁獲能力に対し真摯に取り組むべきである。
5. VDS管理方式は、まき網漁業管理上効果的ではなかった。かえって、まき網漁業による漁獲努力量の増加を招いた。VDS管理方式がまぐろ資源の保存・管理に有効であるか否か科学的な見地から見直すべきである。